

# 世界景気への懸念を背景に市場に動揺が走る ～米中協議の進展や、景気配慮の動きの拡がりに注目～

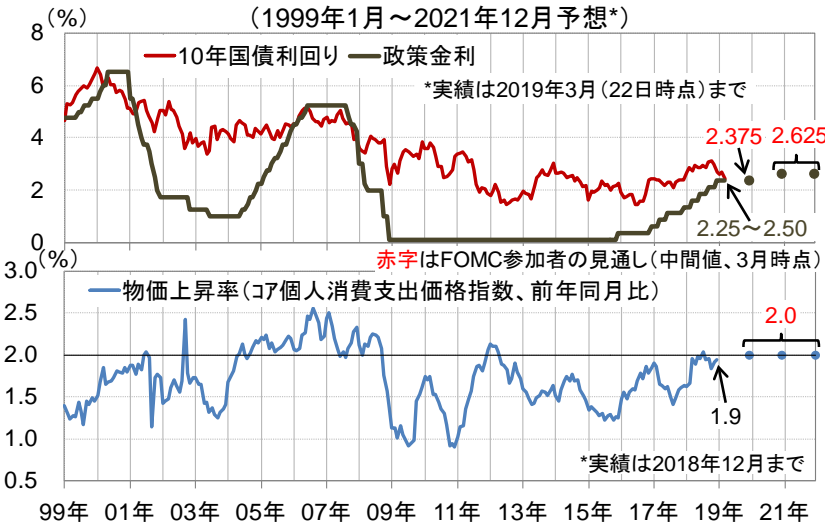
米FRB(連邦準備制度理事会)が今月19、20日のFOMC(連邦公開市場委員会)で、景気に配慮したハト派色を一部の予想以上に強めたのに続き、22日には、欧米の3月の製造業PMI(購買担当者指数)が予想に反して低下したことなどから、世界景気への懸念が拡がり、欧米で長期金利の低下が進んだほか、株価は大きく下落、円相場が1米ドル=109円台に上昇しました。なお、米国の10年国債および3ヵ月物財務省証券の利回りが「長短逆転」状態となり、景気減速の予兆と一部で捉えられたことなども、投資家心理に悪影響を及ぼしたとみられます。そして、週明け25日には、日経平均株価が一時、700円超の下落となるなど、アジアでも株価が軟調となりました。

今回のFOMCでは、2021年にかけての政策金利の見通しが引き下げられ、従来2回とみられていた年内の利上げはゼロに、そして、20年は利上げ1回、21年は利上げなしとなりました。また、FRBの保有資産の縮小を9月末に終了させる方針が示されました。金利見通しの引き下げや資産縮小の終了は、方向性としては市場の想定どおりだったものの、年内の利上げがゼロとなったことや、資産縮小の終了が年末ではなく9月末とされたことなどは、一部で意外感をもって受け止められました。ただし、GDP成長率の見通しも下方修正(2019年:2.3%→2.1%、20年:2.0%→1.9%)されたものの、21年の見通しは1.8%で据え置かれるなど、FRBは米国経済について悲観的になったわけではありません。また、3月の製造業PMIについては、ユーロ圏の中核国、ドイツで前月比▲2.9ポイントの44.7と、2012年8月以来の低水準、ユーロ圏全体でも▲1.7ポイントの47.6と、13年4月以来の低水準となったほか、米国でも▲0.5ポイントの52.5と、17年6月以来の低い水準となりました。ただし、PMIは50が好不調の境目で、ドイツではこれを3ヵ月連続で下回ったものの、米国では引き続き上回っています。

米国発の通商摩擦が熾り続ける中、世界景気への懸念が折に触れて強まり、市場の動揺につながっています。しかし、今週28、29日および4月初めに閣僚級協議が予定されているなど、米中協議が継続される限り、全ての問題が一度に解決することはないと、事態は良い方向に向かうと期待されます。また、中国で景気支援策が発表されているほか、FRBだけでなく、ECB(欧州中央銀行)が年内の利上げ開始の見送りを決めるなど、主要国で景気に配慮する動きが拡がりつつあることも、今後、世界景気の回復・拡大の後押しにつながると期待されます。

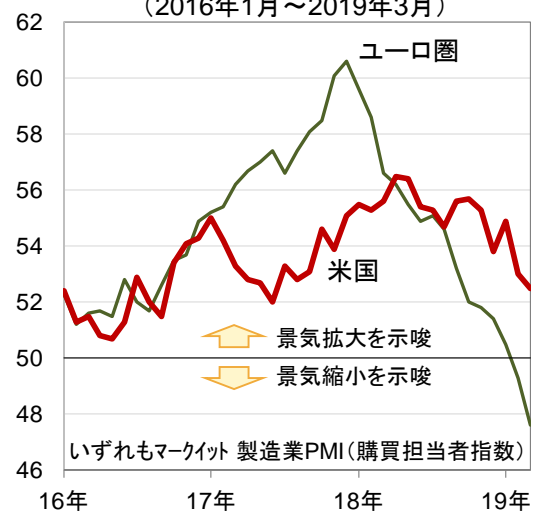
## 米国の金利および物価の推移

(1999年1月～2021年12月予想\*)



## 米国とユーロ圏の景況感の推移

(2016年1月～2019年3月)



米FRBなどの信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。